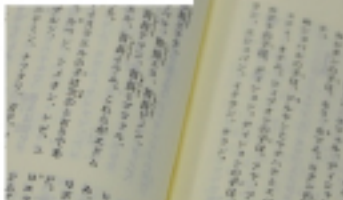




**We need your passion.**



# 「いと小さいひとりに」 ～友として 共にはぐくむ～

いわき福音協会は障がい福祉を柱に半世紀以上にわたる福祉の実践を通して『誰もが地域を舞台にひとりひとり自分らしく当たり前暮らしに暮らせる社会』とは何かを追い求めています。今では様々な障がいがある方や、子どもから高齢者まで、いわきの街に暮らすみなさんを支える役割を担い、約20の事業を展開しています。すべての事業所で、多様な人材が、職員としてそれぞれの専門性を極め、磨き、力を発揮しています。

利用者ひとりひとりの想いに寄り添い、今以上に豊かな暮らしを創造していくためにはフレッシュなセンス、みなぎる意欲、そしてパワーが必要です。

あなたの情熱をいわき福音協会で活かしてみませんか？

## いわき福音協会のはたらき

医療（診療・リハビリテーション）

就労支援

保育所

日中活動支援

障害者・老人居宅介護支援  
移動支援

自立・生活訓練

住まいの場・入所支援

住まいの場・地域  
(グループホーム)

相談支援

HAGUKUMU

## いわき福音協会スタッフ

ケースワーカー



ジョブコーチ

サービス管理責任者



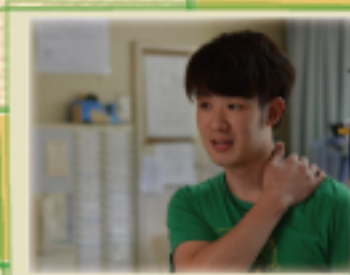
介護支援専門員

栄養士 調理師

就労支援員 看護師

生活支援員

医師  
薬剤師



介護福祉士

診療放射線技師

職業指導員



保育士 リハ工学士

相談支援専門員

生活相談員

運転手  
世話人

サービス提供責任者

児童発達支援管理責任者



作業療法士  
言語聴覚士

ヘルパー  
理学療法士

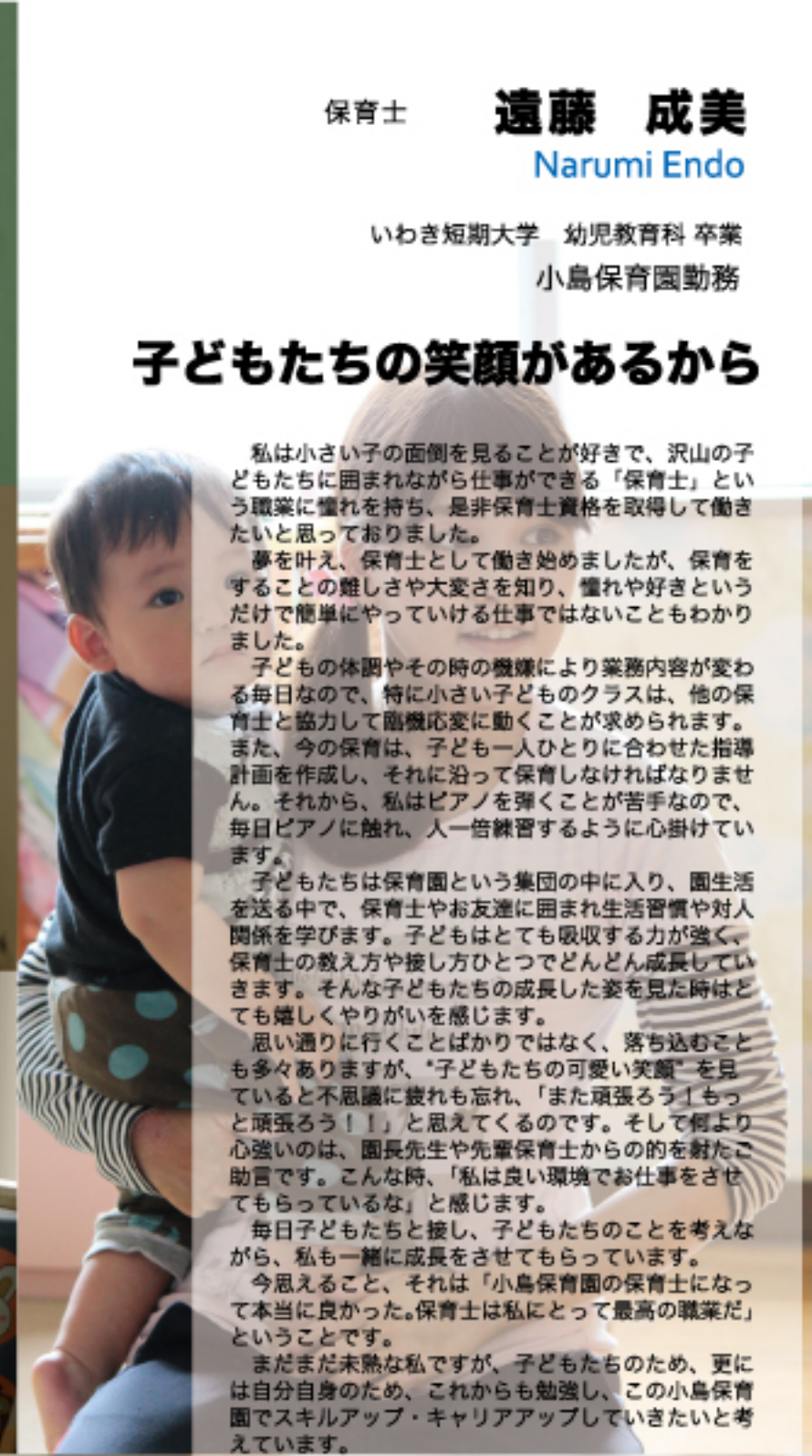
精神保健福祉士

社会福祉士



用務員

事務職  
医療事務



保育士 **遠藤 成美**  
Narumi Endo

いわき短期大学 幼児教育科 卒業  
小島保育園勤務

## 子どもたちの笑顔があるから

私は小さい子の面倒を見るのが好きで、沢山の子どもたちに囲まれながら仕事ができる「保育士」という職業に憧れを持ち、是非保育士資格を取得して働きたいと思っておりました。

夢を叶え、保育士として働き始めましたが、保育をすることの難しさや大変さを知り、憧れや好きというだけで簡単にやっていける仕事ではないこともわかりました。

子どもの体調やその時の機嫌により業務内容が変わる毎日なので、特に小さい子どものクラスは、他の保育士と協力して臨機応変に動くことが求められます。また、今の保育は、子ども一人ひとりに合わせた指導計画を作成し、それに沿って保育しなければなりません。それから、私はピアノを弾くことが苦手なので、毎日ピアノに触れ、人一倍練習するように心掛けています。

子どもたちは保育園という集団の中に入り、園生活を送る中で、保育士やお友達に囲まれ生活習慣や対人関係を学びます。子どもはとても吸収する力が強く、保育士の教え方や接し方ひとつでどんどん成長していきます。そんな子どもたちの成長した姿を見た時はとても嬉しくやりがいを感じます。

思い通りに行くことばかりではなく、落ち込むことも多々ありますが、「子どもたちの可愛い笑顔」を見ていると不思議に疲れも忘れ、「また頑張ろう！もっと頑張ろう！」と思えてくるのです。そして何より心強いのは、園長先生や先輩保育士からの的確なご助言です。こんな時、「私は良い環境でお仕事をさせてもらっているな」と感じます。

毎日子どもたちと接し、子どもたちのことを考えながら、私も一緒に成長をさせてもらっています。

今思えること、それは「小島保育園の保育士になって本当に良かった。保育士は私にとって最高の職業だ」ということです。

まだまだ未熟な私ですが、子どもたちのため、更には自分自身のため、これからも勉強し、この小島保育園でスキルアップ・キャリアアップしていきたいと考えています。

### 小島保育園

昭和26年開園、定員90名。法人で一番最初にできた施設で、法人の理念である聖書の信仰に基づき、0歳児～5歳児の保育を行っています。子どもたちは、保育士のもと毎朝夕、欠かさずお祈りを行い、いつも神さまに守られていることを感謝しています。



栗村 嘉起

社会福祉士・精神保健福祉士

はまなす荘勤務

Yoshiyuki Kurimura

いわき明星大学 理工学部 電子工学科 卒業

## 共に育む笑顔

たわいもない、何気ない会話が大好きな彼女は、いつも満面の笑顔で話しかけてくれます。仕事を忘れて、ただただ、その笑顔に癒される私。そして、自分が疲れている時、不思議にそれを見透かすように元気と笑顔をプレゼントしてくれる彼女。とても繊細で優しくかわいい(先輩に失礼ですが)彼女が私は大好きです。前向きに、純粋に生きる彼女から「何を悩んでいるの?」と背中を押されることもしばしばあります。そして、視線を合わせて彼女の言葉に耳を傾けていると仕事を忘れてしまいそうになることがあります(怒られそうだけど...)。利用者の皆さんから力をもらうことが多々ある毎日です。

私は、そんな彼女が暮らしている入所の施設で、普段「生きづらさ」を抱えている人たちの暮らしのお手伝いをする仕事をしています。普段の仕事の中で、「支援」とか「障がい」という言葉が使われていますが、私はあまり馴染めず「生きづらさがある」、「支えるより支えられている」と感じる場合があります。人付き合いが上手くできなかつたり、考えることが難しかったり、いろいろなかこだわりがあったり...、このように言葉をならべると生きづらさは誰にでもあるものだし、とても身近に感じられます。ものづくりではなく、形の見えない、成果が見えづらい仕事だけれども一緒に買い物に行ったり、美味しく食事をしてお酒を愉しんだり、時には温泉旅行をしたり、おかげさな言い方だけどその人の人生に携わるととてもやりがいのある仕事だと実感しています。一緒に笑ったり、歌ったり、悩んだり、時には泣いたり、その人の人生に向き合い、思いや感情を共有し、本人の苦手な部分のお手伝いをする事が大切だと思いますが、それは難しいことだとも感じています。お手伝いをする中でどうしても自分の主観や価値観で考えてしまいがちで、なかなかその人の気持ちに立つという事が難しく、悩む日々もあります。数年前に本人の思いを第一に考え、施設に入居していた約50名の方の住まいの場を、地域にあるアパート等での生活へ移行する支援に携わった事があります。その際に本人、保護者、支援をする関係機関などと連携し、本人の「思いをつなぐ」仕事の難しさやその大切さを知る事ができました。そして、移行したほとんどの方が「地域で生活できて良かった」との感想を持ち、今、地域の中で楽しみや生きがいを持って生活しています。その人の暮らしのお手伝いの中で、自分自身を振り返り、見つめ直せる、共に育んでいける仕事だと思います。



### はまなす荘

障がいがある方が入所し生活している施設です。定員は50名で普段の生活の中で外出や旅行など楽しみを持って生活しています。本人の思いを第一に地域生活への移行などを目指した支援に取り組んでいます。



保育士 介護福祉士  
介護支援専門員 **園部 陽奈**  
Hina Sonobe

仙台医療福祉専門学校 保育介護福祉科 卒業

居宅介護支援事業所シャローム勤務

## つながって支える

「はいよ。そんなことよりね、これ何だか教えてくれるか？」

ゆっくりと私に差し出されたのは、新聞に載っていた川柳を書き写したメモ。川柳には、ゆるキャラの名前が入っていて訳が分からなかったようでしたが、今流行りのものをどう説明しようか…

「あ、これこれ！」

すぐ隣に載っていたゆるキャラの写真を指差すと

「このことなのか、テレビでやるなー。ありがとう。」

…あれ？私は今日何をしに訪問してるんだっけ。川柳の謎が解けたから、まあいいか。

相談支援部門の介護支援専門員(ケアマネジャー)の仕事に就き2年目になりますが、このように訪問先で目的から脱線してしまうこともしばしば。地域で暮らす高齢者の方々の生活を、ご本人はじめご家族や様々なサービス事業所と連携して支えるこの仕事の難しさ、それと同時にやりがいを感じられるようになってきたところです。

前任地は野の花ホームで、生活支援員として8年間介護も経験しました。身体に障がいがある方々の生活支援で、高齢者の方々の生活を支える今の居宅相談支援とは全く別なもの…と考えていました。しかし、制度や支える方の年齢こそ違いますが、根本的なことは何も変わらない。

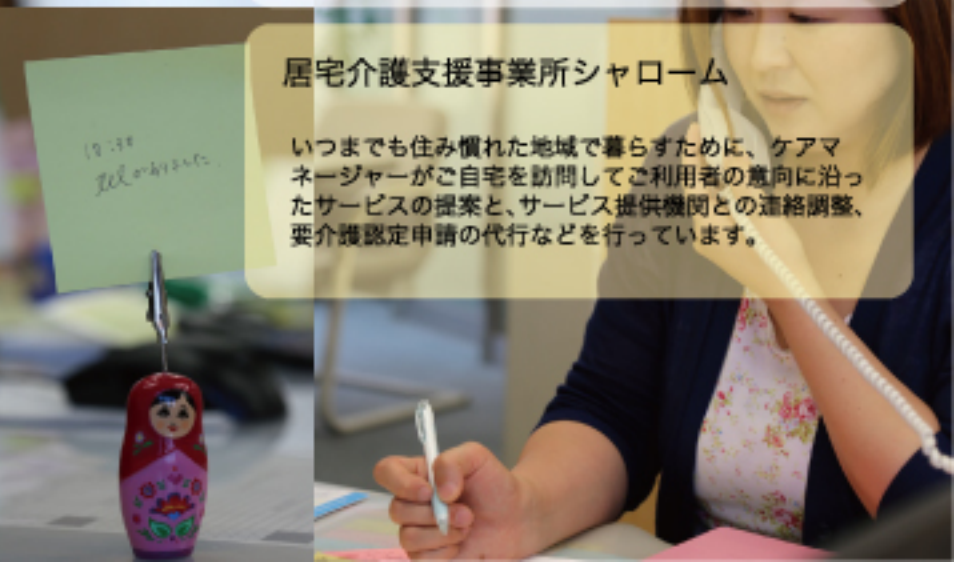
それは私が一番大切にしていることで、ご本人と向き合って、地域とつながるといこと。

ご本人と向き合って、内に秘めた想いを話していただく。そこから本当の意味で、生活を支える第一歩が踏み出せる。その想いをサービス事業所と共有し、みんながつながる。そうすることで、ご本人を支えていくことができるんです。

だから、ゆるキャラの話題もその手段。

### 居宅介護支援事業所シャローム

いつまでも住み慣れた地域で暮らすために、ケアマネジャーがご自宅を訪問してご利用者の意向に沿ったサービスの提案と、サービス提供機関との連絡調整、要介護認定申請の代行などを行っています。





生活支援員 **岡本 正志**  
Masashi Okamoto

東北福祉大学 社会福祉学部 卒業  
ポポロ勤務

## 「やらない」ことも手伝いたい

「22、23、24、25…白組の勝ち！」

ポポロのスポーツ大会は、私たちが思っていたよりも大盛況で終わりました。何が楽しいかな？今みなさんがやりたいことは何か？と考えながらの行事設定、今回は日頃の運動不足を解消しようとフライングディスクやポッチャ、玉入れ等を行なうスポーツ大会に決定。みなさん普段のゆっくりした生活とは違って楽しく汗をかいていました。

ふと、横に目をやると、みんなの輪にまざれなかったKさん。寝転がって声援を送るAさん。正座して待っているNさん。参加しない方にも色々なカラーがあります。

日々の支援には、常々利用者さんの「できる、できない」を把握し、伸ばす支援、補う支援を行なうことを大事にしています。同じくらいに大事に考えていること、それが「やらない」を支援すること。自分だって、仕事も活動も、やりたくない時だってある。やりたくないものを「やろう」と言われるのは、それがどれだけ丁寧で優しい言葉がけでも苦痛な時もあるはず。頑張ることは大事だし、私もその気持ちほどでも大切にしたいし、頑張っている気持ちが実現するように手伝います。でも、時には一人でもやりたいこともある。休みたくもなる。そんな気持ちも大切にしたいから、ポポロには午前中から横になっている人がいるときもあるし、散歩に出ずテレビを見ている人もいます。そうして、やりたくなったら、またしっかり活動しましょう。ただ活動のお手伝いをすればいい、ではなく、メリハリを大事に、時にはやりたくない気持ちも大切にしたいと考えています。

十人十色の個性を持っているみなさんへ、毎日を楽しみ過ごせるように。私も自分の個性を精いっぱい出してお手伝いしたい。「ゆっくり休んで、後から頑張ろう！」

ポポロ

2011年開所。利用される方の生きがいや就職へのステップとなるよう、菓子作りやさき織り、紙すき畑仕事作業を中心とした活動、生活支援をおこなっています。



作業療法士 **橋本 東一**

Touichi Hashimoto

岩手リハビリテーション学院 作業療法学科 卒業  
福島整肢療護園勤務

### 子ども達の 『元気と笑顔』 が一番の魅力！

子ども達への私たちの日々の関わりは、障がいがいほどストレートに戻ってきます。どうすれば元気に過ごせるのか、健康を維持するにはどうするか、など保護者・関係スタッフと共に考え、生活環境を整えます。また、その子の今の気持ちをくみ取りながら、笑顔になれる活動を一緒にしていきます。その子がやりたい・出来るようになりたい活動を共に練習し、一人でできた時の喜びを共に味わえるのが、作業療法の魅力の一つでもあります。



#### 福島整肢療護園

身体が不自由な子どもたち、運動・発達に遅れがある子どもたちのリハビリテーション病院です。医師・看護師・リハビリスタッフ・ケースワーカー・保育士等からなるチームで療育を行います。また、病院でありながら福祉事業所（医療型障害児入所施設、療養介護事業所）でもあり、重度の障がいをお持ちの方や子どもたちが生活する暮らしの場でもあります。

#### ・本館（正面玄関）

言語聴覚士 **作山 友望**  
Tomomi Sakuyama

国際医療福祉大学 保健福祉学部 言語聴覚学科 卒業

#### ・リハビリ棟（希望館）

### お子さんの育ちを ご家族とともに見守る ことができる

私たち言語聴覚士が関わる、コミュニケーションや食事はより楽しく生活をするためにはとても重要な部分になると思います。療護園ではお子さん一人ひとりと長い期間を通し関わることが多いので、ご飯をお腹いっぱい食べることや自分の気持ちを相手に伝えることを通し、より充実した生活のサポートができればと思います。

ご家族から外食が上手にできたことや家であったエピソードなどをお聞きするのがとても楽しみで「早く療護園に来て教えてくれたの」と言って頂けた時の喜びはひとしお。お子さんの育ちをご家族と共に感じることが出来ることは日々の励みになります。

就労支援員

**後藤 弘行**  
Hiroyuki Goto

一般企業 15年勤務経験

就労移行支援事業所つばさ 勤務

## 彼らと私は同じ立場

ガラガラガラ…。ガチャン。

自動販売機に缶を補充する。これが以前の仕事で私が良く耳にしていた音。私は以前自動販売機のルートセールスの仕事を約15年間勤めました。毎日が単独での行動、一日に50件の自動販売機を回る事もありました。

そんなある日、仕事中に突然倒れ立ち上がる事ができなくなる出来事がありました。

私はすぐに仕事に戻れると思っていました。しかし結果として30代にして職を失う事になったのです。

その事がきっかけで自分自身が「生きづらさ」を感じるようになりました。でも世の中にはそんな生きづらさを感じている人がたくさんいる事を1冊の本を読んで知りました。

それまで福祉の世界は無縁だった私が、自然と福祉の世界に入り込むことになったのです。

知識もない、福祉の経験もない、ただ私には同じ気持ちが理解できます。

そして15年間勤めた就労経験があります。

そこで、私は障がいがある人の就労支援の仕事を選びました。

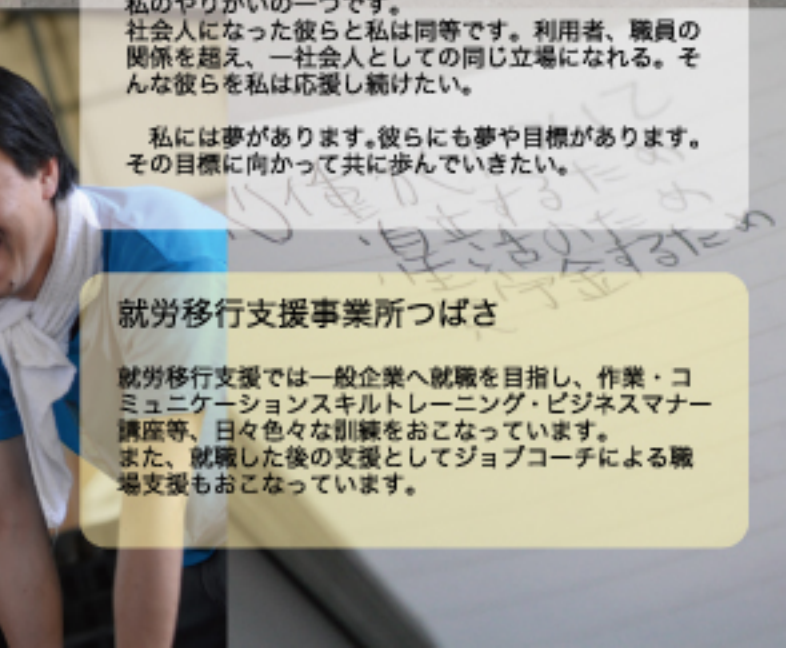
現在は一般企業へ就職をしたいとの希望を持っている障がいがある人へ、自分の経験を活かし「はたらく」ということを伝えています。「おはようございます」「お疲れさまでした」そんな基本的な挨拶の重要性、当たり前だと思っていた事がここでは当たり前ではないこともしばしばあります。どう彼らに理解してもらおうか試行錯誤の毎日です。

ただ、つばさの活動の中で日々彼らは成長していきます。そして一つの目標である就職が決まり、晴れて社会人となった彼らは更に輝きを増す。そんな卒業生と月に1回集まって顔を合わせて話をするひと時が今の私のやりがいの一つです。社会人になった彼らと私は同等です。利用者、職員の関係を超え、一社会人としての同じ立場になれる。そんな彼らを私は応援し続けたい。

私には夢があります。彼らにも夢や目標があります。その目標に向かって共に歩んでいきたい。

### 就労移行支援事業所つばさ

就労移行支援では一般企業へ就職を目指し、作業・コミュニケーションスキルトレーニング・ビジネスマナー講座等、日々色々な訓練をおこなっています。また、就職した後の支援としてジョブコーチによる職場支援もおこなっています。







保育士  
生活支援員 **草野 正明**  
Masaaki Kusano

いわき短期大学 幼児教育科 卒業  
保育園8年勤務経験  
野の花ホーム勤務

## 言葉にできない 一体感と達成感

以前より障がいのある方への支援に関心があり、昨年度より野の花ホームで生活支援員として勤めています。同じ福祉の分野である幼児教育科を出て、保育士としての経験はありましたが、障がいについての知識や介護の経験は殆んどなく、初めはやっていけるか少々不安でした。

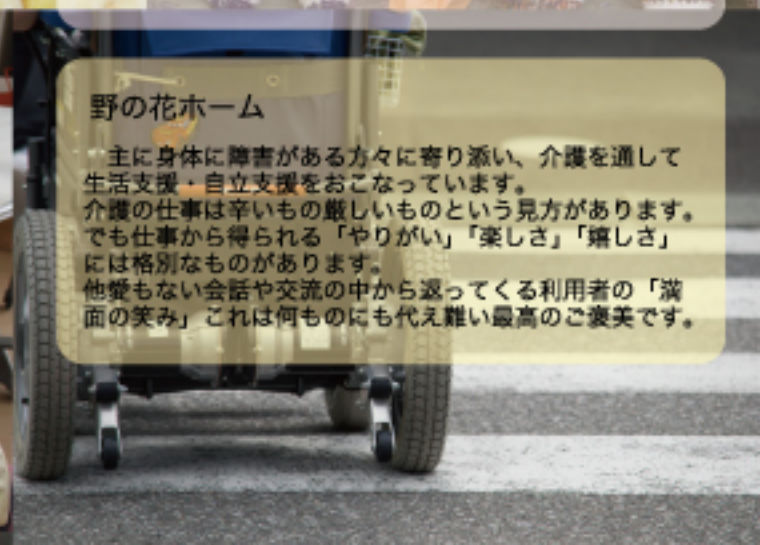
予想していた通り、勤め始めた頃は障がいの特徴について学んだり、介護の基本を覚えたりと毎日が勉強で、食事や着替え、排泄や入浴とどれをとっても勝手がわからず満足に対応することができませんでした。そんな未熟な自分にでもできることはないかと考えた時、「相手の立場になって考える」という答えに行き着きました。目の前の利用者さんは今何がしたいのか、何に困っているのか、もし自分だったらどうするか、と考えるようになりました。利用者さんの障がいによる生きづらさを理解すると言ったらおこがましいかもしれませんが、生きづらさを理解しようとするのなら未熟な自分にもできると思ったのです。

利用者さんの要望をなかなか理解することができず、介助に時間がかかってしまうこともあります。利用者さんも必死に伝え、こちらも試行錯誤して対応する。結果、期待通りの介助ができた時にはお互い笑顔になり、何ともいえない一体感と達成感があります。介助に対して不安があっても、利用者さんから「ありがとう」と言ってもらえると、次への自信や意欲に繋がります。

野の花ホームに勤めて一年が経ち、勤め始めた頃には見えなかった利用者さんの姿や、利用者さんそれぞれに沿った支援の仕方というものが少しずつ分かってきました。まだまだ学ぶことが多く、体力も使うので、この仕事が大変だと思うこともあります。ですが、それ以上にやり甲斐があり、保育士の頃とはまた違った充実感を感じています。これからも初心を忘れず、利用者さんがいつも笑顔でいられる、そんな支援をしていきたいです。

### 野の花ホーム

主に身体に障害がある方々に寄り添い、介護を通して生活支援・自立支援をおこなっています。介護の仕事は辛いもの、厳しいものという見方があります。でも仕事から得られる「やりがい」「楽しさ」「嬉しさ」には格別なものがあります。他愛もない会話や交流の中から返ってくる利用者の「満面の笑み」これは何ものにも代え難い最高のご褒美です。



**子ども、障がいのある方、高齢者**  
**みんながいわきの街で自分らしく当たり前のように暮らせるように・・・**  
**たくさんの夢や希望が叶うように・・・**  
**いわき福音協会だからできることがあります**

○多様な働き場

保育所や病院、そして児童、障がい、介護、地域、就労など多様な福祉の事業所があります。乳幼児から高齢者までご本人そしてご家族の暮らし・ライフステージに沿った働き場があります。

○たくさんの仲間

若手からベテランまで大勢の福祉・医療の専門職が活躍しています。それぞれが専門性に磨きをかけ、互いを尊重し、連携できる環境。仲間がいるから素敵な実践が生まれ、支援の輪が広がります。

○新たな福祉に向かって

法人の今後を検討する場として中堅職員を中心に第二次将来構想検討委員会が編成され、提言と5カ年計画をまとめました。(\*1)

また、法人として地域の自立支援協議会(\*2)等会議に積極的に参画し、地域の福祉を耕し、育てる役割もあります。いわき福音協会には法人を変革し、より良い障がい福祉、地域福祉を作るチャンスがあります。みんなでいわきの街を住みやすい、豊かな街にしましょう。

\*1 第二次将来構想検討委員会 法人ホームページ参照

\*2 障がいのある人が障がいのない人と共に暮らせる地域をつくるため、障がい福祉に係る関係機関が情報を共有し、地域の課題解決に向け協議を行うための場

○仕事と生活の調和（ワークライフバランス）

いい仕事といい生活。働く職員にとっても大切なことです。

いわき福音協会は福利厚生充実の充実、安心して働き続けられるよう職員をサポートします。子育て支援に積極的に取り組む「子育てサポート企業」として福島労働局の認定を受けています。



**叶えられる夢がある**  
**社会福祉法人 いわき福音協会**

法人概要 法人名称：社会福祉法人 いわき福音協会  
 法人所在地：福島県いわき市平上平窪字羽黒 40 番地 44  
 設立：1950年6月2日  
 理事長：海野 洋  
 従業員数：574名（平成26年4月1現在）

法人理念：法人創立者大河内一郎氏の理念である「聖書的信仰に基づき、社会福祉事業を行う」意志を継承し、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じた日常生活を地域社会において営むことができることを目指し、

1. 一人一人の意向を汲み自己実現ができるように支える。
2. 日々の暮らしの中で利用者の願いに確実に応え実践する。
3. 地域の福祉ニーズに積極的に応える。
4. 経営の透明性、信頼の確保に努める。



社会福祉法人いわき福音協会  
 事業紹介



医療部門	施設支援部門		
<b>福島整肢療養園</b> (病院) ・整形外科・小児科・内科 ・リハビリテーション科 ・アレルギー科 (障害児入所施設) ・療養介護 ・医療型障害児入所施設 ・短期入所事業 ・日中一時支援	<b>はまなす荘</b> (障害者支援施設) ・施設入所支援 ・生活介護 ・短期入所事業 ・日中一時支援	<b>野の花ホーム</b> (障害者支援施設) ・施設入所支援 ・生活介護 ・短期入所事業 ・日中一時支援	<b>カナン村</b> (障害者支援施設) ・施設入所支援 ・生活介護 ・短期入所事業 ・日中一時支援
	<b>はまぎく荘</b> (障害者支援施設) ・療養介護 ・施設入所支援 ・短期入所事業 ・日中一時支援	<b>小島保育園</b> ・保育所 (特別保育事業) ・延長保育 ・障害児保育 ・保育所地域活動	<b>はまゆう</b> ・療養型自立訓練 ・短期入所事業 ・日中一時支援

地域生活支援部門

<b>ポポロ</b> ・生活介護 ・日中一時支援	<b>光の家</b> ・生活介護	<b>かがやき</b> ・就労継続支援 B型	<b>つばさ</b> ・就労継続支援 A型 ・就労移行支援 ・ジョブコーチ支援
<b>障害者総合生活支援センター ふくいん</b> ・共同生活援助	<b>古郷福祉ホーム</b> ・福祉ホーム	<b>エデンの家</b> ・児童発達支援センター ・放課後等デイサービス ・生活介護 ・児童相談支援 ・日中一時支援	

相談・訪問部門

<b>ホームアスターション シャローム</b> (障害者居宅介護) ・緊急訪問介護 ・行動支援 ・同行支援 ・移動支援 (老人居宅介護) (移送介護事業部)	<b>相談支援事業所 ふくいん</b> ・相談支援事業	<b>いわき障害者就業・生活支援センター</b> ・障害者就業・生活支援センター事業
<b>居宅介護支援事業所シャローム</b> ・居宅介護支援事業		



## 社会福祉法人 いわき福音協会

〒970-8001

福島県いわき市平上平窪字羽黒 40 番地 44

ホームページ：<http://i-fukuin.com>

メールアドレス：[honbu@i-fukuin.jp](mailto:honbu@i-fukuin.jp)

### 【採用連絡先】

**TEL：0246-23-1903 FAX：0246-23-1905**

企画・編集・制作：社会福祉法人いわき福音協会 時寛祐志 岡本正志 園部陽奈 鍛治奈保子 小野公平 今泉俊昭（広報委員会）



詳しくは Web で！

キーワード

**「いわき福音協会」**

※働く職員紹介は随時更新していく予定です！